

第8回 安中市道の駅整備検討委員会 説明資料

— 今年度委員会の議論内容ダイジェスト —

令和7年3月19日（水） 10:00～

於：安中市役所本庁舎3階 305会議室

主な議題

- 各種調査の実施状況及び速報結果の報告
- 昨年度の委員会での意見概要を踏まえた、今年度の議論のポイントの確認

各種調査の実施状況の報告

◆ 来訪者インタビュー調査

- 調査場所までの来訪理由、交通手段、訪問頻度
- 今までに行ったことがある／今後行ってみたい周辺施設
- 道の駅に必要な機能
- 道の駅ができた時の来訪頻度



▲ 碓氷峠鉄道文化むらでの実施状況

◆ 地区住民アンケート調査

- これまで道の駅を利用した主な目的
- 道の駅ができる場合に必要だと思う機能や場所
- 道の駅ができた場合に見込まれる来訪頻度
- 「地域との協働」による道の駅の運営・管理への参加意向、参加できそうな具体的な活動

◆ 民間事業者ヒアリング調査

- 「道の駅」基本構想に関する意見・提案
- 市が考える事業手法や事業スケジュールについて
- 事業参画の可能性について
- 道の駅の区域について



今年度の議論のポイントの確認

①「横川エリア」として捉えることの重要性

- 計画対象地近辺だけでなく、碓氷関所跡や歴史的遺産等、**周辺の観光資源との連携を図りながらどのような“特徴ある”道の駅を目指すか。**

②他地域からの誘客の重要性

- 他地域からの誘客を図るため、二ーズ調査結果を踏まえながら、**連携の方向性を検討**する。

③地域住民への配慮の重要性

- 観光利用だけでなく、地域住民の方々に**日常的に利用していただき、持続可能性を高めていく**ためのあり方をどうするか。

④情報発信の重要性

- **多方面から来訪され、立ち寄っていただくための情報発信**のあり方をどうするか。

⑤道の駅の大きな位置づけについて

- 道の駅として確実に求められる機能のほか、**「ここにしかない道の駅」を目指すにあたり、どんな機能・コンテンツの導入・強化が必要か。**

⑥計画対象地のつかい方

- 施設計画の中で、**道の駅として確保せねばならない機能と、厳しい敷地形状の中で来訪者の滞留やアクティビティに資する空間等をどのように両立させるか**を検討する。

⑦整備の大きな方向性について

- **道の駅の単独整備か、碓氷峠鉄道文化むらとの一体型整備のどちらの方向性を目指すかを確定**させ、道の駅整備の基本計画として取りまとめる。

主な議題

- 各種調査の集計結果の報告
- 道の駅整備のコンセプト・ゾーニング(案)について
- 道の駅整備の大きな方向性について

コンセプト・ゾーニング(案)

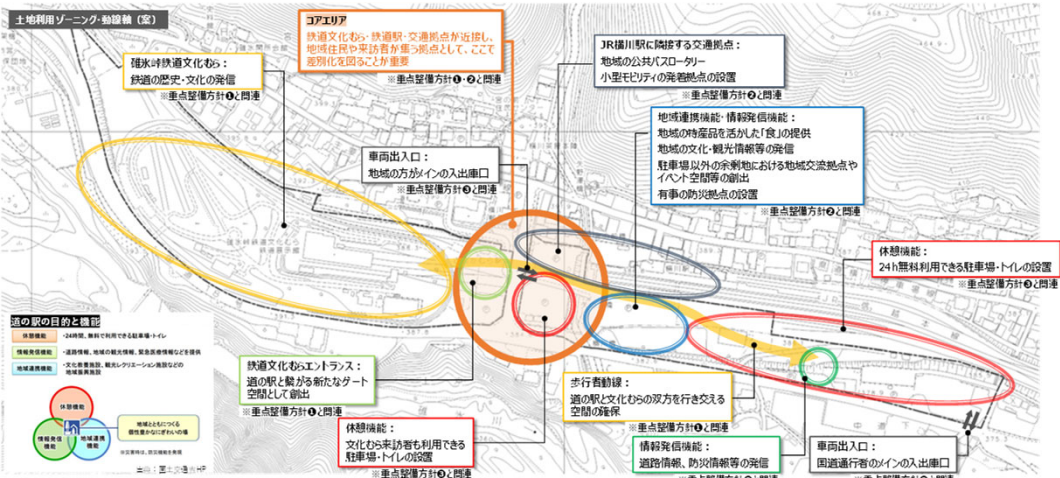
空間形成コンセプト(素案)：

悠久の時を紡ぐ碓氷峠鉄道文化むらと一体となり
地域にも開かれたまちの拠点へ

重点整備方針① | 道の駅と鉄道文化むらの一体感の創出

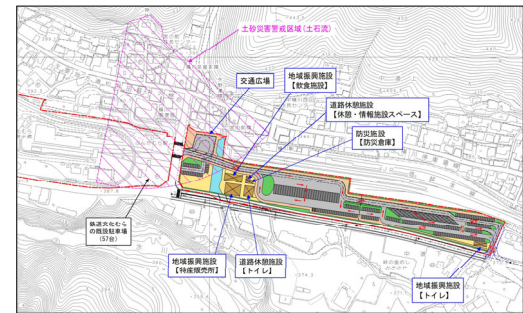
重点整備方針② | 地域に寄り添う道の駅としての空間構成の配慮

重点整備方針③ | 来訪者・運転者が円滑に来訪できる空間の創出

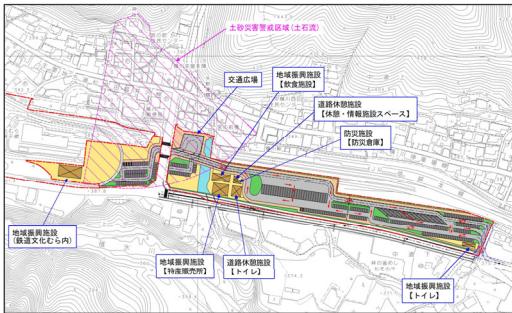


道の駅整備の大きな方向性

◆ 大きな方向性の比較検討



▲「道の駅」整備案
：道の駅エリアを単独で整備



▲「道の駅・碓氷峠鉄道文化むら(一部)」整備案
：鉄道文化むらと一体的に整備

鉄道文化むらと掛け合わせることでオンリーワンの雰囲気を実現できる方向性として、

「道の駅・碓氷峠鉄道文化むら(一部)」整備案にて了承

主な議題

- 基本計画に関わる各種検討状況の報告
- 道の駅への導入機能の絞り込み
- 道の駅の施設配置の考え方



導入機能の絞り込み

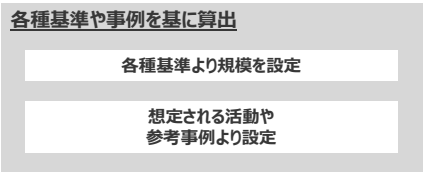
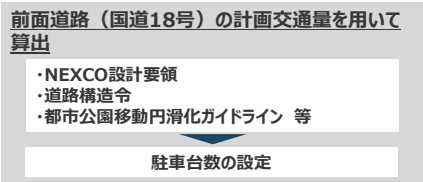
「道の駅」として実現を目指す
基本的な機能（基本構想7章-1）

ニーズ調査・事業者ヒアリング結果、
及び委員会意見に沿っていれば採用

基本計画等で
議論を要する機能（基本構想7章-2）

強い要望として挙がっていないものは、
採用を見送り

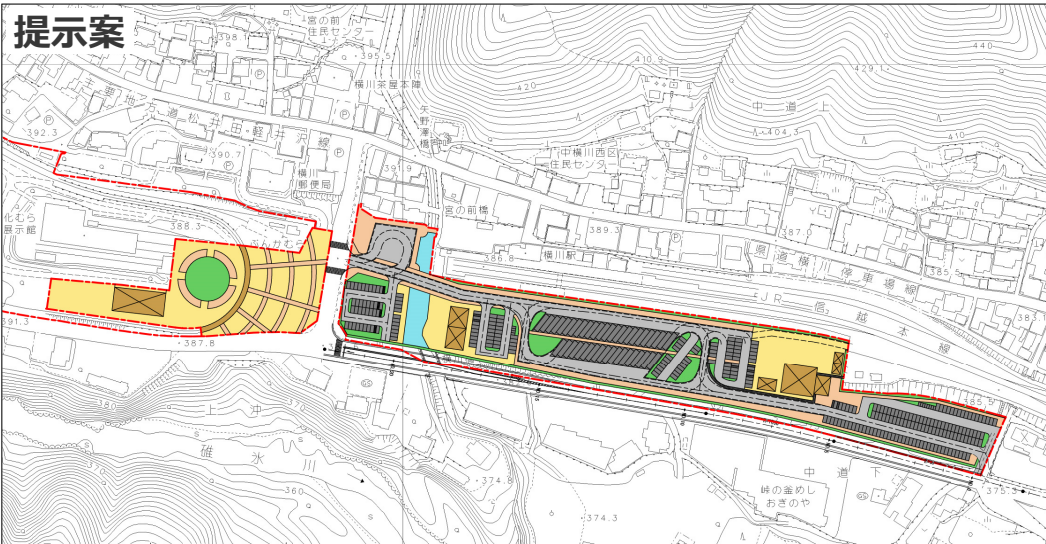
絞り込んだ導入機能に対し、以下の方法を用い規模を設定
・前面道路（国道18号）の計画交通量を用いる方法
・各種基準や事例を基にする方法



- (1) 休憩機能
 - ⑤ 駐車場・バスターミナル
 - トイレ・パウダールーム等
 - ⑧ 休憩施設
 - ⑥ 観光案内所
 - ⑦ 情報発信施設
- (2) 情報発信機能
- (3) 地域連携機能
 - ① 農産物直売所
 - ② 物産販売所
 - 飲食施設（③レストラン・④カフェ）
 - コミュニティ施設
 - 屋外施設（⑭イベント会場）
- (4) 防災機能
 - ⑰ 地域住民や滞在者の避難場所等
 - ⑱ 避難場所等に必要な施設や設備

道の駅の施設配置の考え方

◆道の駅施設と鉄道文化むらの一部を一体的に整備する方向性に則り、
施設配置のバランス、計画予定地の高低差、敷地境界等の制約条件を勘案しながら、施設配置を精査

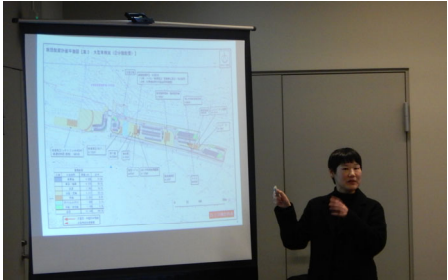


【意見から見えた方向性】

- 施設配置は、大きく「集約配置」「分散配置」の方向性が挙がった。
- 駐車場については、大型車両がメインに見える印象が拭えない、との意見が挙がった。

主な議題

- 施設配置計画の精査の方針について
- 基本計画（素案）の報告



施設配置計画の精査の方針

→第6回委員会意見、及び土地利用ゾーニングでの考え方を考慮し、複数の施設配置案を展開

【挙げた意見の概要】

施設集約配置：

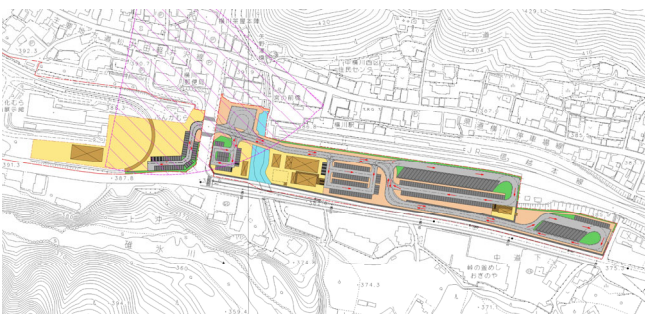
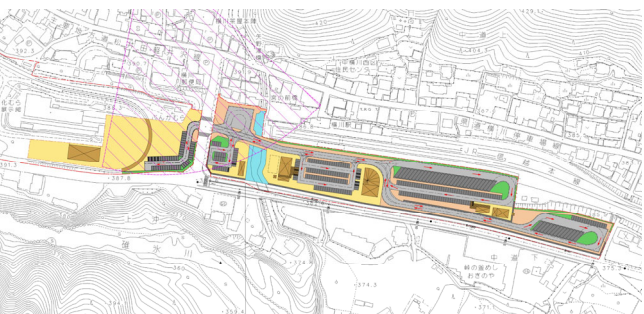
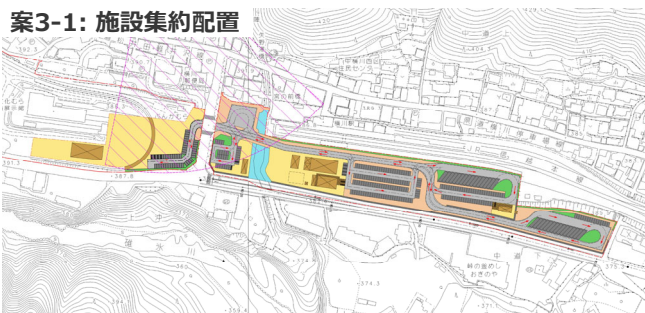
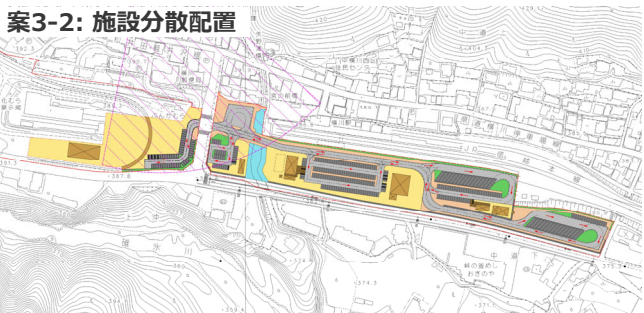
- 商業・集客の観点では、施設は集約させる方が良い。
- 管理上、施設配置は集約型の方が効率が良い。
- 魅力を集めて、お客様の利便性を高めるべき。
- 子連れから見ると、移動が多いと子どもにとって心配。

施設分散配置：

- 利用者ごとに使い方が変わり、各々の動線が等しくなる。「歩いて回れる」という概念を大切にできる。
- 一極集中としないよう、スペースを広く使い、ゆとりを持たせるのが良い。

施設配置は「集約配置」を基本とし、機能別の役割を踏まえつつ、さまざまな利用目的やニーズに対応できる「分散配置」の概念も加味できるように配慮

基本計画素案に反映

	案 1：施設集約配置型＋大型車両スペース東寄せ	案 2：施設分散配置型＋大型車両スペース東寄せ
イメージ	 設定した導入機能は、計画地の中でもコアエリアに集約	 設定した導入機能は、計画地の全体にわたって配置（コアエリアには集客力のある施設を配置）
	案 3：大型車両スペースを削減し、空間に余裕を持たせる	
イメージ	 案3-1: 施設集約配置 大型車両スペースを削減し、施設配置の空間に余裕を持たせ、利用者の移動促進にも繋がる空間を創出	 案3-2: 施設分散配置 [同左]